

基礎研 レポート

データで見る「東京一極集中」 東京と地方の人口の動きを探る (下・流出編)

ー人口デッドエンド化する東京の姿ー

生活研究部 研究員 天野 馨南子
(03)3512-1878 amano@nli-research.co.jp

1—— (下)のはじめに・最新の流出入格差を探る

本レポートは、上・下シリーズで、直近 2017 年における年間の東京と地方の人口の動きを俯瞰することによって、2015 年国勢調査に基づく地域人口推計結果が示した「東京一極集中のさらなる進行」の未来を変えられるかどうか、探るものである。

2017 年において東京都への他のエリアからの流入は 41 万 9 千人、逆に東京から都外に流出した人口は 34 万 4 千人であった。

1 年間で 7 万 5 千人の人口が流入超過しており、東京へ流入した人口の 82%しか、東京から地方へ流出していない計算となる。年間人口純増の規模のイメージ的には、丁度、徳島県（都道府県人口ランキング 44/47 位）の人口の 1 割である。

東京都において 2017 年 1 年だけで、徳島県民の 10 人に 1 人分、東京に人口が増えたということになる。

やはり、東京都が全国の移動人口のデッドエンド（行き止まり）化している様相が垣間見えてくる。本稿では、2017 年に東京から地方へ流出した人口についてエリア別に検証してみたい。

デッドエンド化している東京からどれだけの人を呼び戻すことに各エリアが成功しているのか。検討してみたい。

2——2017年・人々は東京都からどこへ流出したのか

1 | 男女合計した流出状況—大都市圏に集中

まずは2017年、男女あわせた総数で東京都からどの道府県へ人々が流出していったのか最初に見てみたい(図表1)。上位7エリアまで(神奈川・埼玉・千葉・大阪・愛知・福岡)が1万人以上の男女が東京都から流出しているエリアになるが、三大都市圏などいずれも政令指定都市をもつ大都市エリアばかりである。特に神奈川県と埼玉県は流出人口全体の約2割ずつの6~7万人の人口が流出している、東京からのメジャー引越先となっている。

注意したいのは、上位3エリアが特に流出が多い状況であるが、いずれも東京近郊エリアであり、3エリアともその一部は東京へのメジャー通勤・通学エリアとなっているということである。

東京都から住民票上の転居はしたものの、昼間は東京で仕事や勉学をしている夜間のみ的人口移動が含まれている、ということは指摘しておきたい。

1万人には届かないものの、東京から5千人以上流出しているエリアは茨城・静岡・兵庫・宮城・長野・栃木の6エリアあり、東京への通勤通学にはやや遠い関東エリアならびに陸路アクセスの良好な中部エリアがメインとなっている。これらの6エリアは夜間のみではなく昼間の人口としての流出先であると見られるものの、東京都に近いことが条件となっているようである。

【図表 1】 2017 年年間「東京から流出してゆく人々」ランキング（男女計）

順位	都道府県	都外流出総数	割合	8 地方区分	
1	神奈川県	74,333	21.6%	関東	1 万人以上 関東エリア多い 三大都市 大都市圏
2	埼玉県	60,466	17.6%	関東	
3	千葉県	46,307	13.5%	関東	
4	大阪府	16,029	4.7%	近畿	
5	愛知県	12,690	3.7%	中部	
6	北海道	10,239	3.0%	北海道	
7	福岡県	10,191	3.0%	九州・沖縄	
8	茨城県	9,796	2.8%	関東	5 千人以上 東京に近い エリアが多い
9	静岡県	8,936	2.6%	中部	
10	兵庫県	7,688	2.2%	近畿	
11	宮城県	6,228	1.8%	東北	
12	長野県	5,824	1.7%	中部	
13	栃木県	5,333	1.6%	関東	2 千人以上
14	群馬県	4,984	1.4%	関東	
15	京都府	4,496	1.3%	近畿	
16	沖縄県	4,298	1.3%	九州・沖縄	
17	新潟県	4,230	1.2%	中部	
18	広島県	4,137	1.2%	中国	
19	福島県	3,761	1.1%	東北	
20	山梨県	3,475	1.0%	中部	
21	青森県	2,576	0.7%	東北	
22	鹿児島県	2,564	0.7%	九州・沖縄	
23	熊本県	2,284	0.7%	九州・沖縄	
24	岩手県	2,261	0.7%	東北	
25	岡山県	2,077	0.6%	中国	
26	石川県	1,989	0.6%	中部	2 千人未満
27	山形県	1,872	0.5%	東北	
28	秋田県	1,830	0.5%	東北	
29	三重県	1,760	0.5%	近畿	
30	岐阜県	1,759	0.5%	中部	
31	山口県	1,674	0.5%	中国	
32	富山県	1,671	0.5%	中部	
33	長崎県	1,658	0.5%	九州・沖縄	
34	宮崎県	1,568	0.5%	九州・沖縄	
35	愛媛県	1,565	0.5%	中国	
36	香川県	1,506	0.4%	中国	
37	大分県	1,446	0.4%	九州・沖縄	
38	奈良県	1,417	0.4%	近畿	
39	滋賀県	1,384	0.4%	近畿	
40	高知県	939	0.3%	四国	
41	佐賀県	879	0.3%	九州・沖縄	
42	福井県	837	0.2%	中部	
43	徳島県	777	0.2%	四国	
44	島根県	716	0.2%	中国	
45	和歌山県	702	0.2%	近畿	
46	鳥取県	633	0.2%	中国	

資料) 総務省「平成 29 年住民基本台帳人口移動報告」より筆者作成

2 | 男女別の流出状況

次に男性のみ、女性のみ、東京都からの流出を個々に見てみたい（図表 2、図表 3）。

流入と同じく男女とも、ベスト 3 はやはり関東（神奈川、埼玉、千葉）であり、この 3 エリアのみ、東京都から年間に万単位の流出がある。

ただ、男女の流出規模には相違があり、男性では 1 万人未満でも 5 千人を超える移動がさらに 6 エリア存在するのに対し、女性では 2 エリアしか存在しない。またその流出先 2 つも三大都市圏エリアである大阪府、愛知県となっている。

男性に比べ女性に関しては、**徹底して再度大都市エリアに流出している様子**がうかがえる。女性の流出は主に「大都市間移動」の様相となっている。

女性ランキングの続く 5 千人未満 2 千人以上の流出エリアをみると、男性に比べ東京のより近距離エリアがランクインしていることが見て取れる。東京都から流出する女性は、あまり遠方への転居を選択しないようである。

【図表2】 2017年年間「東京から流出してゆく人々」ランキング（男性計）

順位	都道府県	都外流出総数	割合	8地方区分	
1	神奈川県	38,705	20.6%	関東	1万人以上 関東のみ
2	埼玉県	31,928	17.0%	関東	
3	千葉県	24,737	13.2%	関東	
4	大阪府	9,365	5.0%	近畿	5千人以上 大都市圏がメイン
5	愛知県	7,494	4.0%	中部	
6	北海道	5,987	3.2%	北海道	
7	福岡県	5,887	3.1%	九州・沖縄	
8	茨城県	5,490	2.9%	関東	
9	静岡県	5,002	2.7%	中部	
10	兵庫県	4,172	2.2%	近畿	
11	宮城県	3,656	1.9%	東北	2千人以上 東京にアクセスがよいエリアが多い
12	長野県	3,106	1.7%	中部	
13	栃木県	2,954	1.6%	関東	
14	群馬県	2,859	1.5%	関東	
15	京都府	2,426	1.3%	近畿	
16	広島県	2,421	1.3%	中国	
17	新潟県	2,352	1.3%	中部	
18	沖縄県	2,347	1.3%	九州・沖縄	
19	福島県	2,105	1.1%	東北	
20	山梨県	1,936	1.0%	中部	
21	青森県	1,451	0.8%	東北	
22	鹿児島県	1,415	0.8%	九州・沖縄	
23	熊本県	1,274	0.7%	九州・沖縄	
24	岩手県	1,241	0.7%	東北	
25	岡山県	1,172	0.6%	中国	
26	石川県	1,153	0.6%	中部	
27	山形県	1,062	0.6%	東北	
28	三重県	1,059	0.6%	近畿	
29	秋田県	1,012	0.5%	東北	
30	岐阜県	994	0.5%	中部	
31	富山県	964	0.5%	中部	
32	長崎県	951	0.5%	九州・沖縄	
33	山口県	932	0.5%	中国	
34	香川県	891	0.5%	四国	
35	宮崎県	875	0.5%	九州・沖縄	
36	愛媛県	874	0.5%	四国	
37	大分県	814	0.4%	九州・沖縄	
38	滋賀県	810	0.4%	近畿	
39	奈良県	750	0.4%	近畿	
40	高知県	521	0.3%	四国	
41	佐賀県	503	0.3%	九州・沖縄	
42	福井県	459	0.2%	中部	
43	島根県	433	0.2%	中国	
44	徳島県	418	0.2%	四国	
45	和歌山県	388	0.2%	近畿	
46	鳥取県	370	0.2%	中国	

資料) 総務省「平成29年住民基本台帳人口移動報告」より筆者作成

【図表3】 2017年年間「東京から流出してゆく人々」ランキング（女性計）

順位	都道府県	都外流出総数	割合	8地方区分	
1	神奈川県	35,628	22.8%	関東	2万人以上 関東のみ
2	埼玉県	28,538	18.3%	関東	
3	千葉県	21,570	13.8%	関東	
4	大阪府	6,664	4.3%	近畿	5千人以上 三大都市
5	愛知県	5,196	3.3%	中部	
6	茨城県	4,306	2.8%	関東	2千人以上 関東が多い 東京に近い中部
7	福岡県	4,304	2.8%	九州・沖縄	
8	北海道	4,252	2.7%	北海道	
9	静岡県	3,934	2.5%	中部	
10	兵庫県	3,516	2.3%	近畿	
11	長野県	2,718	1.7%	中部	
12	宮城県	2,572	1.6%	東北	
13	栃木県	2,379	1.5%	関東	
14	群馬県	2,125	1.4%	関東	
15	京都府	2,070	1.3%	近畿	
16	沖縄県	1,951	1.3%	九州・沖縄	
17	新潟県	1,878	1.2%	中部	
18	広島県	1,716	1.1%	中国	
19	福島県	1,656	1.1%	東北	
20	山梨県	1,539	1.0%	中部	
21	鹿児島県	1,149	0.7%	九州・沖縄	
22	青森県	1,125	0.7%	東北	
23	岩手県	1,020	0.7%	東北	
24	熊本県	1,010	0.6%	九州・沖縄	
25	岡山県	905	0.6%	中国	
26	石川県	836	0.5%	中部	
27	秋田県	818	0.5%	東北	
28	山形県	810	0.5%	東北	
29	岐阜県	765	0.5%	中部	
30	山口県	742	0.5%	中国	
31	富山県	707	0.5%	中部	
32	長崎県	707	0.5%	九州・沖縄	
33	三重県	701	0.4%	近畿	
34	宮崎県	693	0.4%	九州・沖縄	
35	愛媛県	691	0.4%	四国	
36	奈良県	667	0.4%	近畿	
37	大分県	632	0.4%	九州・沖縄	
38	香川県	615	0.4%	四国	
39	滋賀県	574	0.4%	近畿	
40	高知県	418	0.3%	四国	
41	福井県	378	0.2%	中部	
42	佐賀県	376	0.2%	九州・沖縄	
43	徳島県	359	0.2%	四国	
44	和歌山県	314	0.2%	近畿	
45	島根県	283	0.2%	中国	
46	鳥取県	263	0.2%	中国	

資料) 総務省「平成29年住民基本台帳人口移動報告」より筆者作成

3——2017年・東京都から地方に引き寄せる誘引力に男女差はあったのか

1 | 男性の7割未満しか女性が戻らないエリアも4県

(上)では東京都への流入人口について検討したが、男性に対して女性がどの程度の割合で東京都から人口流出しているのか（地方エリアへと東京人口を誘引できているのか）の流出男女差指標（あるエリアへの年間流出女性数／男性数、以下『女性誘引力』とする）を見てみたい（図表4）。

最初に全国平均を見ると、83.1%である。

全国的にみると地方は東京都から女性を呼ぶ誘引力が、男性への誘引力の8割程度にとどまっている、という見方が可能である。

男性を10人呼び寄せられる力があるとする、女性に関しては8人程度しか呼び寄せることが出来ない、ということである。つまり、地方エリアは東京都の女性に対するアピール力が総じて弱いということになる（地方の男性重視誘引特性）。

東京都から流出してくる男性に比べて女性の割合が最も少ないグループは、女性誘引力が70%を切っている。つまり、男性が3人流出してくるのに対して、女性は2人程度、といったイメージとなっている。この女性誘引力が70%に満たないエリアは4エリアあり、少ない順に島根県、三重県、香川県、愛知県となっている。

これらの県は全国的に見るならば、東京都から男性を呼ぶ誘引力と女性を呼ぶ誘引力の格差が大きなエリアといえるだろう。

女性誘引力が全国平均未満かつ70%から80%未満のエリアは26エリアも存在する。

図表からわかるように、女性誘引力の全国平均を引き上げているのは対東京都流出入人口規模が大きく、さらに女性誘引力も高めに関東3エリア（神奈川・埼玉・千葉）なのである。

ゆえに、大半のエリアは全国平均の83%未満、という結果になっている。

残念ながら、男性よりも女性に対して誘引力が高い（指標が100を超える）エリアは1つもない。言い換えるなら、東京都は全国の女性人口のデッドエンド化が著しいエリア、地方女性デッドエンド化エリアなのである。

2 | 女性誘引力が全国平均以上はわずか8エリア

上に述べたように女性誘引力が比較的男性誘引力に近いエリアは一部のエリアに限定されている。男性へのアピールの約9割に近い誘引力をもつエリアは、格差ランキング下位の関東の東京都隣接3エリア（神奈川・埼玉・千葉）、そして大阪を除く近畿3エリア（奈良・京都・兵庫）、そして、長野、

徳島の8エリアである。

注意すべきは、あくまでもこの指標は東京都からの「誘引力の強さ」そのものは示してはいない。
 全体の誘引力の強度はさておき、誘引力の男女格差のみをみているものである。

【図表4】 2017年年間「東京から流出してゆく人々」男女差ランキング
 (格差の大きい順・流出女性/流出男性、%)

順位	エリア	男性流出	女性流出	女性/男性 女性低帰還度	8地方区分	
1	島根県	433	283	65.4%	中国	女性流出は 男性の6割台
2	三重県	1,059	701	66.2%	近畿	
3	香川県	891	615	69.0%	四国	
4	愛知県	7,494	5,196	69.3%	中部	
5	宮城県	3656	2572	70.4%	東北	女性流出は 男性の7割台
6	滋賀県	810	574	70.9%	中部	
7	広島県	2,421	1,716	70.9%	中国	
8	北海道	5,987	4,252	71.0%	北海道	
9	鳥取県	370	263	71.1%	中国	
10	大阪府	9365	6664	71.2%	近畿	
11	石川県	1,153	836	72.5%	中部	
12	福岡県	5,887	4,304	73.1%	九州・沖縄	
13	富山県	964	707	73.3%	中部	
14	群馬県	2,859	2,125	74.3%	関東	
15	長崎県	951	707	74.3%	九州・沖縄	女性の流出は男性 の8割台だが 全国平均より低い
16	佐賀県	503	376	74.8%	九州・沖縄	
17	山形県	1,062	810	76.3%	東北	
18	岐阜県	994	765	77.0%	中部	
19	岡山県	1,172	905	77.2%	中国	
20	青森県	1,451	1,125	77.5%	東北	
21	大分県	814	632	77.6%	九州・沖縄	
22	茨城県	5490	4306	78.4%	関東	
23	静岡県	5,002	3,934	78.6%	中部	
24	福島県	2,105	1,656	78.7%	中部	
25	愛媛県	874	691	79.1%	四国	女性の流出は男性 の8割台だが 全国平均より低い
26	宮崎県	875	693	79.2%	九州・沖縄	
27	熊本県	1,274	1,010	79.3%	九州・沖縄	
28	山梨県	1,936	1,539	79.5%	中部	
29	山口県	932	742	79.6%	中国	
30	新潟県	2,352	1,878	79.8%	中部	
31	高知県	521	418	80.2%	四国	
32	栃木県	2,954	2,379	80.5%	関東	
33	秋田県	1,012	818	80.8%	東北	
34	和歌山県	388	314	80.9%	近畿	
35	鹿児島県	1,415	1,149	81.2%	九州・沖縄	
36	岩手県	1,241	1,020	82.2%	東北	
37	福井県	459	378	82.4%	中部	
38	沖縄県	2,347	1,951	83.1%	九州・沖縄	
	全国	187,715	156,070	83.1%		
39	兵庫県	4,172	3,516	84.3%	近畿	
40	京都府	2,426	2,070	85.3%	近畿	
41	徳島県	418	359	85.9%	四国	
42	千葉県	24,737	21,570	87.2%	関東	
43	長野県	3,106	2,718	87.5%	中部	
44	奈良県	750	667	88.9%	近畿	
45	埼玉県	31,928	28,538	89.4%	関東	
46	神奈川県	38,705	35,628	92.1%	関東	

資料) 総務省「平成29年住民基本台帳人口移動報告」より筆者作成

4——東京都からの人口奪還状況 ～東京デッドエンド化寄与エリアはどこか

1 | 男女計奪還率 100%超は、埼玉 1 県のみ／奪還 6 割以下 4 県も

最後に、結局のところ、2017 年の 1 年間において東京都に送り込んだ人口をどの程度東京都から取り戻しているか（流出／流入）を、エリアごとにみてみたい（図表 5）。

2017 年年間ベースでは埼玉県だけは東京からの人口が東京への人口を上回る「奪還勝者」となっている。また千葉県もほぼ 100%に近い奪還率である。

9 割程度の奪還率は神奈川県、沖縄県である。

全国平均だけ見ると約 8 割東京都から地方は人口を年内に奪還しているように見えるものの、図表からは牽引しているのは特定エリアのみであることが明確に伝わる結果となっている。

一方、東京からの奪還率が 6 割を切ってしまうエリアも 4 エリア存在する。青森県、新潟県、岐阜県、和歌山県である。

これらのエリアは東京の人口デッドエンド化にかなり寄与するエリアとなっているといえるだろう。

東京からの奪還率が 7 割に満たないエリアが実に 26 エリアにもものぼることから、いかに東京都が全国からの人口の行き止まりとなって一極集中が進んでいるかがわかるであろう。

【図表 5】 2017 年年間 東京流出／東京流入「東京からの奪還率」ランキング (%)

順位	道府県	8地方	東京へ流入	東京から流出	奪還率 (流出／流入)
1	埼玉県	関東	57664	60466	104.9%
2	千葉県	関東	47298	46307	97.9%
3	神奈川県	関東	81292	74333	91.4%
4	沖縄県	九・沖	4922	4298	87.3%
5	茨城県	関東	11722	9796	83.6%
6	全国		419283	343785	82.0%
7	長野県	中部	7243	5824	80.4%
8	栃木県	関東	6844	5333	77.9%
9	群馬県	関東	6495	4984	76.7%
10	富山県	中部	2209	1671	75.6%
11	静岡県	中部	11820	8936	75.6%
12	山梨県	中部	4691	3475	74.1%
13	大分県	九・沖	1964	1446	73.6%
14	福岡県	九・沖	14066	10191	72.5%
15	石川県	中部	2770	1989	71.8%
16	愛知県	中部	17701	12690	71.7%
17	北海道	北海道	14317	10239	71.5%
18	京都府	近畿	6301	4496	71.4%
19	鹿児島県	九・沖	3597	2564	71.3%
20	香川県	四国	2139	1506	70.4%
21	宮城県	東北	9058	6228	68.8%
22	山口県	中国	2448	1674	68.4%
23	大阪府	近畿	23656	16029	67.8%
24	高知県	四国	1390	939	67.6%
25	熊本県	九・沖	3395	2284	67.3%
26	島根県	中国	1082	716	66.2%
27	広島県	中国	6256	4137	66.1%
28	徳島県	四国	1200	777	64.8%
29	長崎県	九・沖	2568	1658	64.6%
30	福井県	中部	1299	837	64.4%
31	佐賀県	九・沖	1365	879	64.4%
32	鳥取県	中国	986	633	64.2%
33	三重県	近畿	2747	1760	64.1%
34	岡山県	中国	3261	2077	63.7%
35	岩手県	東北	3574	2261	63.3%
36	愛媛県	四国	2485	1565	63.0%
37	宮崎県	九・沖	2500	1568	62.7%
38	山形県	東北	3026	1872	61.9%
39	兵庫県	近畿	12430	7688	61.9%
40	秋田県	東北	2966	1830	61.7%
41	福島県	東北	6121	3761	61.4%
42	滋賀県	近畿	2254	1384	61.4%
43	奈良県	近畿	2316	1417	61.2%
44	青森県	東北	4321	2576	59.6%
45	新潟県	中部	7125	4230	59.4%
46	岐阜県	中部	3094	1759	56.9%
47	和歌山県	近畿	1305	702	53.8%

資料) 総務省「平成 29 年住民基本台帳人口移動報告」より筆者作成

2 | 人口奪還率に圧倒的な男女格差

— 女性を呼べない地方に出生数の暗雲の影 —

東京からの人口奪還率を次に男女別に計算してみることにする（図表6）。

一目でわかるように、地方エリアは、圧倒的に男性を中心に呼び戻している様子がうかがえる。

【図表6】 2017年・年間「東京からの人口奪還率」ランキング（%）

順位	道府県	男性流出	男性流入	奪還率	順位	道府県	女性流出	女性流入	奪還率	
1	埼玉県	29,326	31,928	108.9%	1	埼玉県	28,338	28,538	100.7%	9割以上奪還
2	千葉県	24,477	24,737	101.1%	2	千葉県	22,821	21,570	94.5%	男性5 女性1
3	神奈川県	42,074	38,705	92.0%	3	神奈川県	39,218	35,628	90.8%	
4	茨城県	6,045	5,490	90.8%	4	沖縄県	2,322	1,951	84.0%	9割未満 8割以上奪還
5	沖縄県	2,600	2,347	90.3%	5	総数	200,530	156,070	77.8%	
6	長野県	3,587	3,106	86.6%	6	茨城県	5,677	4,306	75.8%	男性6 女性1
7	群馬県	3,308	2,859	86.4%	7	長野県	3,656	2,718	74.3%	
8	富山県	1,123	964	85.8%	8	京都府	2,944	2,070	70.3%	8割未満 7割以上奪還
9	全国	218,753	187,715	85.8%	9	栃木県	3,384	2,379	70.3%	
10	栃木県	3,460	2,954	85.4%	10	静岡県	5,686	3,934	69.2%	男性20 女性4
11	山梨県	2,358	1,936	82.1%	11	愛知県	7,762	5,196	66.9%	
12	静岡県	6,134	5,002	81.5%	12	大分県	945	632	66.9%	8割未満 7割以上奪還
13	大分県	1,019	814	79.9%	13	群馬県	3,187	2,125	66.7%	
14	福岡県	7,411	5,887	79.4%	14	山梨県	2,333	1,539	66.0%	男性20 女性4
15	北海道	7,663	5,987	78.1%	15	鹿児島県	1,761	1,149	65.2%	
16	石川県	1,478	1,153	78.0%	16	富山県	1,086	707	65.1%	男性20 女性4
17	香川県	1,152	891	77.3%	17	石川県	1,292	836	64.7%	
18	鹿児島県	1,836	1,415	77.1%	18	福岡県	6,655	4,304	64.7%	奪還6割以下
19	宮城県	4,790	3,656	76.3%	19	山口県	1,152	742	64.4%	
20	愛知県	9,939	7,494	75.4%	20	大阪府	10,403	6,664	64.1%	男性2 女性17
21	島根県	576	433	75.2%	21	北海道	6,654	4,252	63.9%	
22	秋田県	1,374	1,012	73.7%	22	奈良県	1,052	667	63.4%	奪還6割以下
23	熊本県	1,758	1,274	72.5%	23	高知県	666	418	62.8%	
24	長崎県	1,315	951	72.3%	24	広島県	2,742	1,716	62.6%	男性2 女性17
25	京都府	3,357	2,426	72.3%	25	福井県	606	378	62.4%	
26	高知県	724	521	72.0%	26	香川県	987	615	62.3%	奪還6割以下
27	山口県	1,296	932	71.9%	27	熊本県	1,637	1,010	61.7%	
28	三重県	1,473	1,059	71.9%	28	宮城県	4,268	2,572	60.3%	男性2 女性17
29	鳥取県	516	370	71.7%	29	兵庫県	5,835	3,516	60.3%	
30	岩手県	1,739	1,241	71.4%	30	佐賀県	625	376	60.2%	奪還6割以下
31	大阪府	13,253	9,365	70.7%	31	徳島県	600	359	59.8%	
32	山形県	1,509	1,062	70.4%	32	岡山県	1,549	905	58.4%	男性2 女性17
33	宮崎県	1,252	875	69.9%	33	愛媛県	1,184	691	58.4%	
34	徳島県	600	418	69.7%	34	滋賀県	1,012	574	56.7%	奪還6割以下
35	広島県	3,514	2,421	68.9%	35	長崎県	1,253	707	56.4%	
36	岡山県	1,712	1,172	68.5%	36	鳥取県	470	263	56.0%	男性2 女性17
37	佐賀県	740	503	68.0%	37	島根県	506	283	55.9%	
38	福島県	3,132	2,105	67.2%	38	岩手県	1,835	1,020	55.6%	奪還6割以下
39	愛媛県	1,301	874	67.2%	39	宮崎県	1,248	693	55.5%	
40	新潟県	3,535	2,352	66.5%	40	福島県	2,989	1,656	55.4%	男性2 女性17
41	青森県	2,184	1,451	66.4%	41	三重県	1,274	701	55.0%	
42	福井県	693	459	66.2%	42	山形県	1,517	810	53.4%	奪還6割以下
43	滋賀県	1,242	810	65.2%	43	青森県	2,137	1,125	52.6%	
44	兵庫県	6,595	4,172	63.3%	44	新潟県	3,590	1,878	52.3%	男性2 女性17
45	岐阜県	1,623	994	61.2%	45	岐阜県	1,471	765	52.0%	
46	奈良県	1,264	750	59.3%	46	和歌山県	609	314	51.6%	奪還6割以下
47	和歌山県	696	388	55.7%	47	秋田県	1,592	818	51.4%	

資料) 総務省「平成29年住民基本台帳人口移動報告」より筆者作成

全国平均でも男性 85.8%、女性 77.8%であり、8 ポイントの差がある。しかしこれを個別に見ると、埼玉県こそ男女とも 100%以上の奪還率を見せているが、他のエリアはほぼ東京への流入超過、かつ男性の奪還が優勢となっている。

8割以上奪還できているエリアは男性では 11 エリアあるのに対し、女性ではわずか 4 エリアである。一方で 6 割以下の奪還エリアは、男性は 2 エリアにとどまるが、女性にいたっては 17 エリアにのぼっている。

5——地域人口政策における「エリア出生率比較の罨」からの脱却を

本レポートの [\(上\)](#) でも述べたが、子どもの数＝「母親の数」×出生率である。

いくら出生率だけをあげてみても母親候補の数が減少すれば、生まれる子どもの数は増えてはこない。

地方の政策関係者から「経済政策と、結婚・出産のような社会政策は別ものである」といった声を聞くことがある。

こういった声は、恐らくは「母親候補の県外流出による母数減少」が地域ベースで見ると出生数に大きな影響をもたらすことになることへの無理解からくる議論であろう。

母親候補の女性が仕事や居場所を求めてエリア外へどんどん流出する中で、いくら出生率だけがあがっても、そのエリアの空の下に生まれる子どもたちは減るばかりである。

図表からは、2017 年単年の人口移動状況だけを見ても、ほとんどのエリアが東京都に「母親候補」を流出させ、かなり多くを取り戻せていない様子がうかがえる。

東京都が全国最低出生率を突き進みながらも多子化している状況を支えているのが地方から流入する母親候補たちであることを示す 1 つのデータである。

地方がどんなに男性誘致経済政策を進めても、女性はさほど戻ってはこない。

「男に仕事を。そうすれば嫁がついてくる」

そのような懐かしき時代は、専業主婦希望女性が激減した 1990 年代に終焉したことに、地方エリアはもし気がついていないのであれば、早急に気がつかなくてはいけないかもしれない。

母親候補の女性たちが東京というデッドエンドに流入し続けている。

そこは、国内最高の未婚率・国内最低の出生率という悪条件をかいくぐり、何とか出産にいたらねばならない、という大変過酷な世界である。

(上) の繰り返しになるが、都会と地方は対立構造にあるわけではない。実は、とも沈みの構造となっている。

日本全体で取り組む、「東京デッドエンド化解消への取組」。
本気の地方への女性誘引策の展開こそが、急務であると考える。

【参考文献一覧】

総務省総計局. 「平成 29 年住民基本台帳人口移動報告」

国立社会保障人口問題研究所. 「出生動向基本調査」

国立社会保障人口問題研究所. 「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」

国立社会保障人口問題研究所. 「日本の地域別将来推計人口（平成 25（2013）年推計）」

国立社会保障人口問題研究所. 「出生動向基本調査（独身者調査）」第 11 回～第 15 回

厚生省人口問題研究所（1992）「独身青年層の結婚観と子供感」

厚生労働省. 「人口動態調査」

国立社会保障・人口問題研究所. 「人口統計資料集」2017 年版

総務省総計局. 「2015 年 国勢調査速報値」

総務省総計局. 「人口推計（平成 29 年（2017 年）10 月確定値）」

天野 馨南子. “[2つの出生力推移データが示す日本の「次世代育成力」課題の誤解-少子化社会データ再考：スルーされ続けた次世代育成の3ステップ構造-](#)” ニッセイ基礎研究所「研究員の眼」2016年12月26日号

天野 馨南子. “[消え行く日本の子どもー人口減少（少子化）データを読むーわずか半世紀たらず、半減](#)”

へ” ニッセイ基礎研究所「研究員の眼」2018年4月9日号

天野 馨南子. “[データ分析結果が示す「大都市・東京都の出生率支配要因」とは—少子化対策・印象論合戦に終止符をうつために—](#)” ニッセイ基礎研究所 基礎研レポート 2017年8月14日号

天野 馨南子. “[データで見る「東京一極集中」東京と地方の人口の動きを探る（上・流入編）—地方の人口流出は阻止されるのか—](#)” ニッセイ基礎研究所 基礎研レポート 2018年8月6日号

天野 馨南子. “専業主婦ライフの提供は「最強モチ・オファー」なのか — 若い女性が望む理想の生き方とは?” MONEY PLUS 「結婚難民の羅針盤」 2018年4月8日号
<https://moneyforward.com/media/marriage/56775/>